

地方創生関係交付金の効果検証(地方創生推進交付金)

交付対象事業の名称	事業概要	KPI				令和4年度の主な取組とKPIへの影響	今後の方針	事務局評価
		指標	単位	R4目標	R4結果			
犬山市協働プラザを拠点にした人材育成で地域の資源の活用、課題解決事業	<p>本事業は、総合的なまちづくりのエンジンとなる拠点「犬山市協働プラザ」を設置、運用するものである。H29から取り組んできた前身事業の土台を活かし、情報を収集・発信し、対話の場によって新たなアイデアを生み出し、地域の課題解決につながる事業が企画・実施されていく一連の仕組みを構築する。多様な人材や団体が入りし、活動の拠点や情報交換が可能となる空間を提供すると共に、地域資源の情報をより広範囲に、アウトリーチを基本として収集し続け、資源とプレーヤーをつなぐ、また実践された事例のノウハウを提供するための情報発信や相談機能を有する拠点となる。</p> <p>また、全国の市町村にも中間支援機能を担う施設は設置されているが、連携の機会が限られているため、他市町の中間支援機関とも学習交流会として情報交換を行いながら、中間支援人材を育成していく。</p> <p>加えて、現在山積している地域課題の分野は多岐にわたり、各地域で活躍する人材についても育成が必要となっている。そのため、他の人材育成メニューについても実施していき、多面的に事業を推進していく。</p>	① 犬山市協働プラザの一連の仕組みから生み出される事業件数	件	3	3	<p>【犬山市協働プラザ運営事業】</p> <p>犬山市協働プラザの運用3年目となり、過去2年の経験を踏まえ各事業を実施した。対話の場づくりとして実施しているフューチャーセッション@犬山は、カフェ、大学、野外と会場を変えることで新たな参加者を獲得し、KPI①の事業も3件生み出すことができた。</p> <p>KPI②の地域資源バンクの登録件数は、目標を下回ったものの、アウトリーチによる情報収集に注力した結果、昨年よりも実績値は増加した。</p> <p>【多分野の官民協働人材育成事業】</p> <p>令和4年度も市民活動の情報をわかりやすく発信するため、「見せ方・伝え方」講座を実施した。市民団体の情報発信の場として、愛知北FMで団体の活動内容の紹介や会員募集、イベント内容の発信をした。</p> <p>また、新たな社会的活動にチャレンジするための助成事業を実施し、計9事業が実施された。こうした事業の実施により人材が育成され、KPI①の事業の実施やKPI②の登録件数につながっていく。</p>	<p>【犬山市協働プラザ運営事業】</p> <p>KPI①③については目標を達成しているものの、KPI②④については下回った。令和5年度からは、プロポーザルの提案に基づいた新たな事業として展開し、目標達成を目指していく。</p> <p>【多分野の官民協働人材育成事業】</p> <p>令和5年度の「見せ方・伝え方」講座は市単独事業として、市職員に実施予定。より効果的に市民へ情報発信が行えるような講座を実施する。愛知北FMでの放送についても市民団体の情報発信の場として活動内容の紹介等を継続する。</p> <p>助成事業については、持続可能な活動を支援していくため、前年度の成果を検証し、事業内容の見直しを行っていく。</p>	地方創生に相当程度効果があった
		② 地域資源バンクの登録件数	件	180	67			
		③ 犬山市協働プラザの相談対応件数	件	100	101			
		④ 犬山市協働プラザの自主事業の実施に伴う収入額	円	510,000	476,090			
「安心」は「住む」の町丁目番地！災害に強い魅力あるまち犬山シティプロモーション事業	<p>犬山市の特色である自然災害への強さと併せて、積極的な感染症予防に取り組むことで、「安心・安全に暮らせるまち犬山」として、住宅購入予定者に焦点をあてたシティプロモーションを実施することで、若い世代の転入者を増やす。具体的には以下の事業を実施する。</p> <p>①ICT町内会（自治会）システム導入事業</p> <p>②窓口対応時間短縮事業</p> <p>③犬山市ジュニア救命士育成事業</p> <p>④「安心・安全に暮らせるまち犬山」シティプロモーション事業</p>	① 20代、30代の転入者数(人)	人	1,517	2,050	<p>【ICT町内会（自治会）システム導入事業】</p> <p>令和4年度は、デジタル町内会に参加している7町内会に広報や回覧文書の配信を行うとともに、各町内会にヒアリングを実施した。また、各町内会からのシステムに関する問い合わせ対応を行った。</p> <p>【窓口対応時間短縮事業】</p> <p>来庁者を迷わせることがないよう、またスムーズな誘導ができるよう、フロアマネージャー、番号発券機、掲示物等を工夫し、窓口業務改善に取り組んだ。</p> <p>【犬山市ジュニア救命士育成事業】</p> <p>市内の小学校（今井小学校を除く）9校5年生607名、中学校4校2年生653名を対象に、計14日間（犬山中学校のみ2日間）の講習を実施。</p> <p>【「安心・安全に暮らせるまち犬山」シティプロモーション事業】</p> <p>犬山市の歴史や自然、子育て施策等を記載したPRパンフレットを作成し、様々な機会配布をして市の情報発信に努めた。また、愛知県が主催する自治体PRイベントにおいてブースを設置し、来場者への市の魅力を発信するとともに、住宅展示場におけるイベントに参加して相談会を開催し、住宅購入を検討している方へ移住や子育てなどに関する市の施策をPRすることができ、KPI③も達成できた。</p> <p>加えて、市外に住む子育て世代を中心に、犬山市に住んでみたいと思ってもらうことを目的として、犬山市の魅力を季節に合わせて伝える卓上カレンダーを作成し、犬山市へのふるさと納税寄附者のうち、ペビー用品を返礼品として選んだ20代から30代に送付して、犬山市の「住むまち」としての魅力をPRした。</p> <p>R3年度にまん延防止措置等により延期したPR動画の作成を実施。動画コンテストを実施し、市民のシビックプライドの醸成と、定住している市民視点の犬山の魅力動画の収集を実施。</p>	<p>【ICT町内会（自治会）システム導入事業】</p> <p>デジタル町内会事業は、町内会の広報配布における負担軽減を主目的として進めてきたが、広報紙の1号化と民間事業者による全戸配布への変更に伴い、事業の再検討が必要となっている。そのため、町内会にとって本事業が効果的なものかを改めて検証するとともに、条件設定や基準、経費負担等について検討を進める。</p> <p>【窓口対応時間短縮事業】</p> <p>システム利用状況、窓口対応時間、市役所滞在時間等を調査・分析し、さらなるサービス向上を目指して改善に取り組む。</p> <p>【犬山市ジュニア救命士育成事業】</p> <p>令和5年度も同様に小学5年生及び中学2年生を対象に講習を実施する。なお、栗栖小学校と今井小学校は隔年での実施のため、令和5年度では栗栖小学校は未実施。</p> <p>【「安心・安全に暮らせるまち犬山」シティプロモーション事業】</p> <p>令和5年度はデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用し、さらなる移住定住施策を推進していく。主な内容としては、犬山市へ移住を検討している若者世代への市の魅力を効果的に伝えることのできるウェブサイトの作成などを予定している。</p> <p>また、引き続き住宅展示場のイベント等に積極的に参加し。相談会を開催することで、市の魅力を発信し移住につなげていく。</p> <p>市の魅力のひとつとして、「災害につよいまち」をPRし、KPI④の達成に努める。</p> <p>作成した、犬山のPR動画やコンテストで収集した動画を活用する。SNSなどを使って視聴者へ色々な視点で犬山を知ってもらい訪れる場所から、住む場所へ選択肢してもらえるよう犬山市を印象づけるように発信していく。</p>	地方創生に非常に効果的であった
		② 市の支援を受けて、新たにICT町内会（自治会）システムを導入する町内会数(団体)	団体	6	7			
		③ 市が開催する移住・定住の相談会への参加者数	人	15	38			
		④ 転入時のアンケートで犬山市の災害への強さを評価して転入した人の数	人	30	14			